

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 4月 4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100243
法人名	社会福祉法人 真奉会
事業所名	グループホーム あもり
所在地	鹿児島県霧島市隼人町内2075番地2 (電話) 0995-43-8700
自己評価作成日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人は福祉事業を展開しており、隣接した場所に障害者支援事業の通所サービスがあり、様々な作業所がある。霧島市の旧隼人町と旧溝辺町の境に近い場所にあり、遠くに霧島連山を仰ぐ景色の良い場所にあり、鹿児島空港や、嘉例川駅等の観光地や、温泉地にもほど近い。事業所の理念としては、「ありのままのあなたを大切にします」と掲げ日々利用者様が自分の生き方や生活を自分で決め、家庭的な雰囲気、ゆったりと自分らしく楽しい生活が送れるように、職員一人一人が意識して支援する事に取り組んでいます。年2回法人の取り組みやグループホームでの取り組みや様子を伝える広報誌を発行し、御家族や地域の方々への、認知症高齢者グループホームとしての取り組みについて協力等や関わり方について、伝えている。特に力を入れている点は、食事面であり、調理担当職員を配置し、手作りの食事をできたらすぐ提供している。リビングに隣接しているキッチンから、美味しい匂いや調理の音も聞こえ、皆さんが手作りの食事を日々楽しみに生活している。地域との関わりについては、今年度は、新型コロナウイルスの影響で色々な外出行事等が行う事ができず、家族との交流や面会についても、自由に行う事はできなかった。今年7月には、外国人の特定技能実習生の受け入れも決定しており、国際交流や文化交流も含め、研修にもしっかりと取り組んでいきたいと考えている。職員の質の向上や利用者様、御家族へのサービスの向上についても満足度を上げていきたい。一人一人の利用者の方の思いに寄り添い、少しでも長くグループホームでの生活が継続出来るように取り組んでいきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然豊かな霧島市の幹線道路沿いの一角に、障害者支援事業の通所サービス事業所に隣接して平成16年に開設されている。周辺は広い畑地に個人住宅が点在し遠くには霧島連山が望める風光明媚な環境で、平屋建ての2棟に1ユニットづつ設置され園庭には花壇や東屋も設けられて、のどかで平穏に暮らせる施設である。

地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流を大切に取組んでおり、地域のイベントへの参加や隣接の障害者通所サービス事業所の利用者との会話、散歩や買い物時の地域の人との挨拶、ボランティアや実習生の受け入れ、野菜の差し入れがあるなど、円滑に交流する関係を築いているが、現在はコロナ禍に配慮して外出を伴う交流の殆んどを自粛している。年2回情報誌を発行してホームの取り組み等の理解を得るように努め、また、地域住民から寄せられる認知症ケアや高齢者福祉に関する相談等には専門性を活かして助言に取り組んでいる。

管理者及び職員は、ケアの根幹である理念に「ありのままのあなたを大切にします」を掲げ、玄関や事務所、リビングに掲示し、唱和も随時行って周知を図っており、利用者の尊厳や人格、想いを大切に、地域の中で安全で、その人らしく生きがいのある楽しい日々が過ごせる支援に取り組んでいる。利用者及び家族からの意見や要望を、ケアの中や面会、電話等で汲み取り、ミーティングやケア会議等で協議して改善を図っており、意向に沿って趣味や家事などの個別の支援にも取り組むなど、利用者主体の暮らしとなるよう努めている。アンケートの結果からも家族との深い信頼関係が築かれている事が窺える。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼と協力関係を築いており、日頃の業務の中やミーティング、申し送り時に積極的に意見や要望を出し合い、より良いサービスに取り組んでいる。ネパール人4人の特定技能実習生の受け入れも予定しており、研修の実施や異文化への相互理解、円滑な人間関係の構築に向けての取り組みを計画中である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念として、「ありのままのあなたを大切にします」と掲げ、入職時や毎月のミーティングで確認を行っている。日々理念に近付けるよう取り組んでいる。	3年前に職員全員で見直して作り上げた理念に「ありのままのあなたを大切にします」を掲げ、玄関や事務所、リビングに掲示し、随時、唱和も行って共有している。日頃の業務の中やミーティング時に振り返りや意義の確認、意見交換して理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する施設として、ワークショップはやとがあり、実習の受け入れや行事を共同で行ったりしている。	コロナ禍により、いろいろな制限はあるが、通院を家族と協力して実施し、家族、友人との面会、隣接の障害者通所サービス事業所の利用者との会話、ボランティア、実習の受け入れ、野菜を頂く等円滑に交流する関係を築いてきているがコロナ禍に配慮して買い物、外食、一時帰宅、体験学習、ホームの行事に家族や地域の人の参加等は自粛している。 「まちかど介護相談所」を設置して、住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談に、専門性を生かして助言に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	以前は運営推進会議を活用して地域との繋がりがあったが、コロナにより、地域で集まったりが難しい。地域の認知症についての、相談窓口になれるように取り組んでいきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、集まって会議をする事が難しく。文書でのやりとりや意見交換を行っている。	会議は、民生委員、自治会長、市担当者等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して現在は書面会議に変更している。利用者の状況やホームの行事、ヒヤリハット等の報告を資料にして委員に送付し、意見や要望等を貰っている。職員は寄せられた内容を職員会議等で検討して運営やケアの向上に繋げている。家族代表の出席促進を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から電話連絡や文書等での連携を図っている。問い合わせについても、その都度細かく丁寧に伝える努力を行っている。	市担当者とは、介護保険の更新や各種制度の申請、報告、感染症予防に関連する協議、生活保護受給中の利用者の処遇に関する事等を電話や窓口で行い、指導や助言、提案をもらうなど日頃から協力関係を築いており、運営推進会議でもホームの状況の理解を得ている。市からはメールで研修の案内等が届いており、可能な限り受講して運営改善やケアのスキルアップを図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催している。拘束に繋がらないようなケアを目指しセンサー等を活用しながら、一人一人の事例について検討を行っている。	身体拘束や高齢者虐待の防止については運営規定や利用契約書に明記し、計画的な研修の実施で認識を共有している。適正化を図る指針を整備し、身体拘束委員会も年6回開催すると共に、ミーティング等で事例による意見交換や日頃のケアの振り返りに務め、拘束の無いケアに取り組んでいる。スピーチロックを含む不適切なケアには、その都度、注意や助言を行うなど、日頃から気付きを促し、改善に努めている。センサーの使用についてはケアプランに反映し、家族の了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、勉強会の中でも高齢者虐待について、しっかりと学ぶ機会を設け、防止に取り組んでいく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用しての方がいらっしゃる。成年後見制度について1名事業所から、申請している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、質問や気になる事心配な事については、確認するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と細目に連絡をとりあい、状況報告と相談を行っている。要望については、耳を傾けている。	利用者や家族には、日頃から気軽に意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、LINE、手紙等で、また、園便り「グループホームあもり」や電話で利用者の状況を伝えながら意見、要望を聞き取るように努めている。職員は出された要望等をミーティング等で検討して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングを通じて職員の意見や提案を受け、取り入れる工夫をしている。職員の意見等を聞く機会を確保している。	管理者及び職員は日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係の構築に努めている。日頃の業務の中や申し送り、ミーティング時に意見や要望を出し合い、人事考課時の個人面談（年2回）や業務に関する悩みや相談等も随時協議して業務やサービスの向上を図るなど働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。7月からはネパール人の特定技能実習生の受け入れも予定しており、研修の実施や異文化への相互理解、円滑な人間関係の構築に向けての取り組みを計画中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で人事考課に取り組んでいる。年に2回自己反省や目標を決め取り組み、面談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年度は、年間計画を作成して高齢者介護についての必要な知識を身に着けていく。外国人特定技能実習生4名を採用しており、研修の機会の確保を行う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>霧島市地域密着型事業者連合会やグループホーム協議会に加盟している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学や相談を受け、その後昼食等食べ体験してもらうお試し利用についても実施している。料金説明等行う。グループホームの雰囲気体験してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との打ち合わせ後、事業所とも連絡を図り、家族等の困っている事等について対応を行っている。初期の状況については、本人や家族の不安があるので、傾聴し対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が雰囲気になじめるかを確認する。その他の事業所との、比較を行ってもらうようにしている。ニーズ把握を行う。その上で、グループホーム入居の必要性やその他、サービスの方が望ましいか判断をする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な場面で、しっかりと確認と同意を求め、本人の意思や気持ち大切にケアに取り組んでいる。利用者の方と一緒に日々の生活や季節を感じる事ができるようなケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は、新型コロナウイルスの関係で面会等に制限がある。窓越しの面会等行っている。状況が落ち着いたら、外食や外出等できる機会を確保する。年2回広報誌を発行して、取り組み等を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や誕生日等の訪問については、ゆっくりと過ごしていただけるような、雰囲気作りや受け入れ体制を行っている。	利用者毎の馴染みの情報を把握し、通常は近辺の散歩や買い物、一時帰宅、通院、墓参等を家族の協力を得ながら支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して外食、外泊、買い物等は控えている。家族からの要請による利用者の喜寿の祝いの外出については感染予防を徹底して実施している。家族とは面会や電話、手紙の取り次ぎ、園便りの送付等で関係の継続を図っており、携帯電話を所有している利用者は、日常的に家族との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から様子観察を行っている。ケア会議等を通じて関係性の確認を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の家族との連絡相談や不安の軽減を図る取り組みを行っている。再利用やアフターフォローも大切な役割と考え相談に乗る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントだけでは、わからない面については、家族にも確認するが、本人の気持ちや意向をしっかりと汲み取る。以前利用していた事業所とも連携を図る。	高齢・重度化によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら、その人らしい安全で生きがいのある暮らしになるように取り組んでいる。利用者の意向に沿って音楽やテレビの視聴、ぬり絵、園庭の草花を愛でながらの散歩、食材の下処理、テーブル拭き等を、体調や残存能力に配慮しながら個別の支援にも取り組んでおり、それらの成果には感謝や評価の言葉を添えて達成感を得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や本人の趣味嗜好について、本人や家族に確認して、本人の暮らしの継続に取り組む。情報提供書の確認や以前利用していたサービスの担当者にも連絡や問い合わせを行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族に自宅での生活等を確認して、できるだけ本人の以前の生活に近い様なサービス提供に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族との面談に時間を多くとり、職員の提案やケアの取り組みにも耳を傾けているが、もう少し意見交換を行う時間を確保していきたい。定期的にモニタリングを実施している。	利用者や家族の意向を日頃の関わりの中や電話等で把握し、主治医の指示やミーティング、モニタリング時の職員の意見を基に、残存機能や習慣、楽しみ事（趣味や日記書き他）等にも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時は計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て改善に努めており、実施状況は個別ファイルや施設介護支援経過等に記録して状況を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の状況を記録し日誌には、特記事項を記載。朝夕の申し送り等や連絡ノートで情報の伝達や共有に努めている。今後は記録に関する勉強会も実施していく予定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の生活リズムやペースに合わせたケアに取り組んでいる。隣接している、ワークショップはやととの合同での行事にも取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の状況に併せて外部サービス（訪問看護、訪問マッサージ）の検討を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃連絡調整を行っている。月2回の往診や他科受診は、職員と家族対応で行っている。協力医療機関の変更により、入院対応もスムーズになった。受診結果等の報告を細目に行っている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）を実施し、他科受診も家族と協力して適切な医療を受けている。協力医療機関とは24時間の医療連携の体制を構築し、健康状態は密に家族へ報告しており、利用者及び家族の信頼と安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを実施し日頃の健康観察に努めている、その中で小さな変化や気になる事については、病状相談を協力医療機関とその都度連携連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関との電話やFAXでの情報共有や相談を行っている。往診時前もって状況を伝え、往診時短時間であるが、しっかりと診察を行ってもらい、日々の健康状態の維持を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意思を事前に確認している。またそのような状況になってきた時は、再度意向を確認してご家族・本人を含めて主治医とも相談を行い対応を行っている。	重度化や看取りの対応指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。入所後は体調に応じて随時、話し合いや意向の確認を行い、可能な限り家族の想いに沿ったケアをチーム体制で取り組んでいるが、本年度は看取りの実施は無い。重度化や看取りの研修の実施で、スキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応ができるように、マニュアルを準備している。今年度は、消防に依頼して救急対応心肺蘇生の講習を予定しており、AEDの使用方法についても、定期的に学ぶ機会を確保する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策マニュアルを準備している。年2回昼間と夜間の避難訓練を予定しており、更に地震台風等の災害訓練も予定している。地域との協力体制が今後の課題としてある。</p>	<p>夜間発生も想定した火災中心の通報、避難、消火の災害訓練を年2回（1回は消防署立ち合い）実施し、消火器や自動通報装置等の取扱いも研修している。日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、3日以上の食料や飲料水を備蓄している。また、法人本部でも食品や飲料水は備蓄している。今後は風水害や地震災害の訓練と救命、AEDの研修も検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや勉強会を通じてプライバシーの尊重や保護については、しっかりと学び大切にしていきたい。言葉遣いについて、丁寧な声掛けを心掛けていきたい。	人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務については運営規定等に明記され、研修の実施や日頃の業務の中での意見交換等で認識を共有している。理念に沿って、常に利用者を大切にされたケアに努めており、入室時にはノックや声掛けを励行し、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な言葉やトーンで取り組んでいる。管理者はスピーチロックを含む不適切なケアに対しては、その都度、助言等を行なって気付きを促し改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを図り、認知症があるなかでも、レクリエーションや本人の趣味嗜好を確認して、楽しめるような取り組みを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調に合わせた起床時間の対応と食事の時間の提供を心掛けている。入浴については、体調を見ながら実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に1回、出張での理美容サービスを依頼している。また、洗面時櫛を使用して髪を整える等の声掛けを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食対応や片付け、手伝いできる方には、職員と一緒に調り担当職員を配置し日々の食事に工夫を凝らしている。	日頃から好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け等に配慮し調理師資格の職員が主に調理している。おせちや節句、敬老会などの行事食や誕生日のリクエスト、利用者とのどら焼き、たこ焼き作り、敬老会の仕出し弁当等、食事が楽しみとなるよう工夫し、利用者も食材の皮むきやお盆拭き等を積極的に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参の外出等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分食事摂取状況の確認を行いながら、利用者のペースでの食事時間や個別対応を行っている。食欲低下や水分摂取が困難な場合は、医師に相談し栄養補助食品等を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後朝・昼・夕三回口腔ケアに取り組み、入れ歯の洗浄を行っている。協力歯科医療機関と連携を図り、口腔指導や歯科往診を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中できるだけ、トイレ誘導を行っている。各利用者の方の排泄パターンを把握して対応を行っている。夜間は、睡眠をしっかりと行えるように、オムツの使用も行っている。	トイレには車椅子の利用者に配慮してL字型手すり等を設置している。各利用者の排泄パターンを把握し、身体の状況や習慣等に配慮した声掛けで、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて取り組んでおり、オムツからリハビリパンツに改善した例もみられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝排便状況の確認を行い3日以上でない時には、対処する。オヤツにヨーグルトやバナナ、サツマイモ等排泄に繋がるような工夫を行っている。また、利用者の方々と一緒に手作りのおやつ作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	定期的な入浴を実施している。入浴拒否がある方については、対応について工夫を行っている。入浴剤を使用したり、ゆっくりと入浴できるような工夫を行っている。	週2～3回の入浴を基本としているが、必要に応じて温タオルやシャワー浴で清潔を保っている。温度や時間、習慣、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴でゆっくりに楽しんでもらい、入浴後は水分補給や保湿剤の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで、時間の変更や声かけ等の工夫で、気持ちを汲み取りながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝等は、昼夜逆転にならないように、時間を決めて対応を行っている。夜間落ち着かずリビングで過ごす方には、落ち着くまで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の確認と服薬のセットは看護師が実施。服薬確認については、職員2人でのダブルチェックを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや体操等利用者の方が楽しめるような工夫を行っている。食事前の嚥下体操は欠かさず行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、ご家族対応での墓参りや外食を事業所でも取り組んでいた。最近は、室内での行事が主になっている。	利用者の状態に応じた歩行介助で園庭での日光浴や周辺の散歩を日常的に楽しんでいるが、外泊、外食、墓参等は控えている。感染予防対策を徹底して家族との通院や個別支援による一時帰宅等も取り組んでいる。コロナ禍で外出の機会が減少している状況が続いているため、室内での軽い体操やゲーム、音楽・ビデオの視聴、鬼火たきの見物、しめ縄づくり等、工夫してリフレッシュに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	認知症もあり本人でのお金の自己管理は、難しい面がある。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	ご家族希望で、携帯電話を持っている利用者の方がいらっしゃり、必要時対応を行っている。本人やご家族からの電話の取次も対応を行っている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用部分での過ごし方については、一人一人の利用者に合わせ座る位置等配慮している。季節感のある飾り付けを、もっと多くできればと考えている。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは、明るく余裕あるスペースでテーブルやソファ、テレビ、空気清浄機等が利便性に配慮して置かれ畳部屋や広いウッドデッキも設けてある。利用者の作品や季節感のある飾り物、絵画等が飾られ、また、園庭には桜をはじめ多くの樹木、草花が植えられており、遠くには霧島連山も望めている。厨房からは調理の音や臭いが伝わるなど和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓等を徹底し感染予防の手指消毒剤等も設置されており、不快に感じる臭いや騒音もなく、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者の方が、ゆっくりとくつろげる、雰囲気作りに取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に本人の馴染みの物を置き、家族の写真等を張り、心地よく過ごせるように配慮している。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保され、ベッド、エアコン、タンスが備えられている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、家族写真、遺影、ぬいぐるみ等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に落ち着ける雰囲気のある居室となっている。入口の名前の表示や飾り付けは利用者の意向に沿っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室や共用部分については、できるだけ、障害物を取り除き手すりや車椅子については、残存機能を活用できるような、物を準備している。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない